

平成 27 年度事業報告書

平成 27 年 8 月 1 日から平成 28 年 7 月 31 日まで

■ 第 10 期（平成 27 年度）の総括

第 10 期は、前年度に取り組み始めた事業の継続的展開と、新規事業としての「フューチャーセッション」の研究および実践を行った。

フューチャーセッションは、「誰もが自分たちの手で課題に取り組み、そのチャレンジをみんなで応援しあえる社会」を目指し、異なる立場や経験のある人が集い、お互いの違いを大切にしながら未来志向で話を深めていく会議体・交流会のひとつの形態である。場とつながりの研究センターが設立以来取り組んできた「対話によるまちづくり」を支援する取り組みを、設立 10 年を経て再度整理しようとするものである。今期に行われた居場所研究会や子どもの貧困支援者対象のセミナーにおいても、フューチャーセッションを取り入れて実施したところたいへん好評だったので、第 11 期により深めてつなげていきたい。

前年度より取り組み始めた「相互にまなびあう場作り」事業は、2 年目を迎えてより多様なテーマで取り組むことができた。また、「まなびあ」についても各地から問い合わせがあり、様々な団体と連携を組むことができた。「子どもの貧困」という潜在的課題に対し、地域のつながりを活かした子どもの居場所づくりを目指す取り組みは市内ではまだまだ珍しい。地域にさまざまなタイプの居場所ができ、それらがゆるやかにネットワークをつくることで、地域の子どもの貧困に向けた予防的取り組みが行えるものと考え、市内に啓発活動を行っていきたい。

経理面では、前年に引き続き黒字で終えることができた。書類作成や経理事務支援など、いくつかの継続的な業務が今年度もいただけたことが大きい。また、活動計算書上では表現していないが、日常活動やイベントへの「ボランティアの参画」が当団体には多く、日々の取り組みへの源泉となっている。しかし、ボランティアマネジメントもこれからの課題となってくることを見据え、限られたマンパワーの中でも役割分担の見直しが必要となってきた。

ほんまち事務所には、スタッフに加え引き続きボランティアの新納晃納さんが毎週木曜日事務所を開放し、来訪者を受け入れてくださっている。また、ボランティアサークル「SSV 関西学院」をはじめとした学生や市内在住の若者が活動に参加してくれていることもあり、さまざまな創意工夫が活動にもたらすことができたと感じている。当団体に関わるのが楽しいと思ってもらえるような人を増やすためにも、多くの人の意見やアイデアを取り入れながら、誰もが訪れやすい団体づくりを目指したい。

■ 特定非営利活動に係る事業の実施について

1. 市民活動や運営に関する相談事業 (収益 H27 : 751 千円、H26 : 187 千円)

市民活動に関する幅広い相談支援を実施。ひょうごボランティア基金の助成を受け、相談料は半額の1回1,000円（初回無料）で実施。多くが市内の市民活動団体であるが、行政・社協に加え地域団体からの相談が増えている。中でも、地元大学生からの相談（大学生による子ども支援事業など）が増えている。

また、地元・短大からの地域貢献事業の相談が来るなど、幅広い団体からの相談が来た。特に、「居場所づくり」と「子どもの貧困」に関する相談が急増している。

1.1. 市民活動団体・法人設立支援

市民活動団体やNPO法人設立を希望する団体を支援。主に、申請書類作成や運営組織体制づくり、事業報告書作成支援、会計・労務・登記に関するアドバイスをした。

(主な実績)

- NPO法人三田心道会館スポーツ少年団育成母集団（2016年9月認証）

1.2. 団体運営・マネジメント支援

事業企画の立案や継続、運営体制のあり方についてのアドバイス、NPO関連の制度や事例、助成金等の情報提供、広報の相談支援、人材のコーディネートを実施した。

(主な実績)

- NPO法人日本スピリチュアルケアワーカー協会（大阪市）

1.3. 事務作業支援

(主な実績)

- NPO法人保育ネットワーク・ミルク： 運営全般支援、認定NPO取得支援
- NPO法人言語障害者の社会参加を支援する会しゃべろーよ： 会計事務支援
- NPO法人三田市手をつなぐ育成会： 会計事務支援
- NPO法人コミュニティリンク

2. 市民活動に資するネットワーク形成事業 (収益 H27 : 278 千円、H26 : 167 千円)

2.1. まちなか交流企画

(1) まちカフェ

毎月1回、全12回開催。大島がコーディネータを担当し、特にテーマを決めずにざっくばらんな会話を楽しむ時間を提供した。ここでの参加メンバーが、まつりイベント等での出店やさまざまな活動でのボランティアとして活躍して下さった。

また、7.1(1)居場所研究会事業は、まちなか交流企画事業実施の経験から、地域の「居場所の孤立化」を防ぐための活動支援事業として実施している。



(2) まちの読書会

奇数月の第2土曜日を中心に、計6回開催。参加者は読んでいなくても参加可能という設定で開催。書籍の選択は、事務局だけでなく参加者から書籍や著者の提案をいただくことができたこともあり、さまざまなジャンルの本を選んで実施した。



(実施状況)

実施日	書籍名 (出版年)	著者
2015年9月12日	恍惚の人 (1972)	有吉佐和子
2015年11月14日	今日の芸術 (1999)	岡本太郎
2016年1月9日	保育園義務教育化 (2015)	古市憲寿
2016年3月19日	里海資本論～日本社会は「共生の原理」で動く～ (2015)	井上恭介
2016年5月14日	“町内会”は義務ですか?～コミュニティーと自由の実践～ (2014)	紙屋高雪
2016年7月9日	ぼくらの民主主義なんだぜ (2015)	高橋源一郎

2.2. 夏まつり (三田まつり) / 冬まつり (あきんどまつり) での店頭販売

夏と冬の商店街でのイベントに、商店街の一員として参加。事務所前にて、夏はわた菓子、どじょうすくい他を、冬はわた菓子、焼き芋を販売した。リピーター率も高く、我々の店舗として定着しつつある。当日の運営は日常的な関係者に加え、この日のために集まるメンバーも数人いて、賑やかに開催している。

2.3. シェアオフィス・コワーキング

ほんまち事務所を他団体とシェアし、その家賃収益を計上。三田市文化協会と三田親と子の劇場が入居している。(三田親と子の劇場は、2015年11月末まで)

2.4. 三田まちの寺子屋「まなびあ」の運営【公益財団法人ベネッセこども基金助成事業】

地域の子どもを地域で支える仕組みづくりを目指し、主に生活困窮家庭・ひとり親家庭のこどもや不登校児者の学校外教育の提供を目的に、地域住民と協働で平成 25 年 8 月に立ち上げ。共働き家庭をはじめとしたすべての子どもの、放課後のサードプレイスとしての居場所づくりなどにもテーマを拡大し、運営している。

(スタッフ)

子どもたちの学習支援を行う「まなびサポーター」には、事務局および三田在住の 20-30 代メンバーが中心スタッフとなり、一般市民、ボランティアサークル「SSV 関西学院」のメンバーとともに運営している。月 1 回程度の定例会を開催。

(広報)

運営委員の大東真弓さん（三田小学校区学校支援ボランティアコーディネーターほか）の協力のもと、三田小学校・三輪小学校・武庫小学校・松が丘小学校・富士小学校にチラシを配布した。また、関心を持つスクールカウンセラーや、三田市社会福祉協議会「経済的困窮家庭対象の心配事相談」事業から紹介してもらえるような関係づくりができた。

(費用)

初動費用には、独立行政法人福祉医療機構の平成 25 年度助成金を活用。平成 26 年度はボランティアによる運営を続けてきたが、平成 27 年 4 月より公益財団法人ベネッセこども基金の助成を受け事業を展開。平成 28 年度も引き続き助成をいただいた。他には、gooddo 社によるクリック募金（2,500 円/週≒120,000 円/年）に加え、地域からの資金（寄付金、協賛金等）を集めて運営していくことを考えている。

	開設時～	平成 26 年 4 月～	平成 26 年 7 月～
実施日	水曜 15:30～18:30 土曜 13:30～16:30	水曜 15:30～18:30 金曜 //	
場 所	三田ほんまち交流館「縁」		三田小学校区県民交流広場 「じばやんクラブ」
利用者数	小学生～高卒生 平均 4 人	小学生～高卒生 平均 3 人	小学生～高卒生 平均 7 人



3. 市民活動に資する人材育成事業 (収益 H27 : 258 千円、H26 : 262 千円)

3.1. 自主セミナー開催

(1) 「まなびサタデースクール」開催 【公益財団法人ベネッセこども基金助成事業】

三田まちの寺子屋「まなびあ」から派生した事業で、毎月1回、子どもたちのさまざまな「まなび」を促すための企画を実施した。当団体の人材ネットワークや経験値を次活用して、SSV 関西学院のメンバーが主に企画立案を担った。

また、子どもたちのプログラミング的思考力の向上を目的として「はじめてのプログラミング」を開催。参加者及び保護者からの反響もあり、継続的に開催している。

実施日	参加人数
2015年12月19日～ 2016年1月26日(全3回)	8人
2016年2月20日	2人
2016年4月23日	5人
2016年6月18日	13人
2016年7月30日	7人



(2) 「子どもを地域の真ん中に据えた すんごい取り組み」

【公益財団法人ベネッセこども基金助成事業】

「子どもの貧困」や子どもや家庭の地域での孤立などの地域課題に関心ある住民に対し、地域で地域の子どものを支える先進的な取り組みを行っているゲストをお招きした講演会および参加者同士でディスカッションを行うことで、三田での子どもを取り巻く状況を見つめなおし、三田でもできる身の丈にあった取り組みを考え、具体的な行動へのはじめの一歩の動機を促進することを目的に開催した。

実施日	テーマ	ゲスト	参加人数
2016年2月28日	ひとりぼちな子をなくそう！～子どもの「生活視点」で切れ目ない支援を目指して地域に根ざした30年とこれから	山科醍醐こどものひろば 村井琢哉氏	18人
2016年3月6日	子どもが地域で輝くしかけ～誰かのために、自分の未来のために～自分の力で稼ぎ、まちと出会える地域通貨「まーぶ」の取り組み	暮らしづくりネットワーク北芝 松村幸裕子氏	10人
2016年3月13日	巻き込め、地域力！～子どもが自分の力で成長できるように～地域“総がかり”で取り組む、場づくりの10年とこれから	ハートフレンド 徳谷章子氏	14人
2016年3月27日	子どもが「いきいき育つ」ために、わたしたちの地域ができることを考えよう ～フューチャーセッション形式で語ろう	—	12人

企画名	妖精探索スタンプラリー ～いきもの発見！森の小さな住人たち	めざせ！ 運動会の星	30秒クリエイターズ	なぞなぞ運動会
目的	異学年で構成された班で公園内を散策しながらスタンプラリーをすることを通して、屋外で遊ぶことの楽しさを知り、自然に興味・関心をもって自ら探したそうとする力や他人と協力しながら課題を乗り越える力を育むことで、子どもの健やかな育成を支援することを目的として実施。	「運動が苦手と感じる」子どもを対象に、子ども自身がからだの動かし方を学び、自らの変化や達成感を実感できるようなワンポイントレッスンを専門の講師と学生スタッフとが行うことで、運動への苦手意識を払拭し、子どもの自己肯定感を育むことを目的として実施。	CMづくりを通して、子どもたちが様々なツールを使った表現方法を知るとともに、1人ではできないことも仲間と一緒にやれば達成することができる喜びを感じ、役割分担の大切さを実感することで、言葉と言葉以外の方法を組み合わせて相手に伝える力の向上を目的に実施。	子どもたちが今まで学んできたことを生かしなが、自分自身またはチームで協力して多様な観点から答えを導くクイズゲームを行うことで、「推理力」「暗記力」「直感力」を活かして「考える」ことが楽しいと感じてもらい、また物事を生み出していく楽しさを感じるきっかけを作ることを目的に実施。
実施内容	ハイキング・自然学習、スタンプラリー	専門家による、からだの使い方講習	演劇ワークショップ、脚本作り、スマートフォンでの撮影、パソコンでの編集作業、発表会	クイズラリー ※2セット行うことで、考え方の定着を図った
実施日	2015年4月26日(日)10:00-15:45	2015年5月9日(土)13:00-15:00	2015年6月14日(日)13:00-17:00	2015年7月12日(日)9:00-12:00
実施場所	兵庫県立有馬富士公園	関西学院大学神戸三田キャンパスグラウンド	三田市立三田小学校 教室	三田市立三田小学校 教室
参加費	1,000円(帰りのバス代込)	800円	1,000円	500円
参加者数	9人	15人	7人	12人
当日の様子	<p>ハイキング中</p>  <p>有馬富士公園着、自然探索の準備</p> 	<p>ゲストによる練習の様子</p>  <p>測定の様子。86%の子がタイム向上しました</p> 	<p>撮影準備の様子</p>  <p>映像編集の様子</p> 	<p>マッチ棒クイズ</p>  <p>数字クイズの様子</p> 
企画担当者	中嶋和哉(地域住民) 山本了子(園田女子大学2年生) 柴田り(兵庫県立有馬高校3年生)	高橋志門(関西学院大学3年生) ゲスト:飯窪雅宏氏 (ひょうご体づくりサポートかがやき)	具志恒陽(関西学院大学2年生) 米谷美砂(関西学院大学3年生) 中嶋和哉(ボランティア)	井上友彰(関西学院大学3年生) 浅井悠介(関西学院大学2年生) 井領太良(関西学院大学1年生)

企画名	PET でクラブ	あの店、この人、どんなまち？ わくわくレポーター	秋のたんけんたい!! ～もみじの下を歩こう～	飛ばせ!! ぼくらのペットボトルロケット ～親子わくわく工作～
目的	身近なペットボトルを使った工作を行うことで子ども自身が科学の不思議さに関心をもち、豊かで自由な発想力を身につけることを支援するとともに、ペットボトルの再利用(3R)を通して資源の大切さを理解することを目的に実施。	まちの店舗へ取材し、取材した内容をまとめ参加者同士で協力して壁新聞を作ることで、自分自身の意見を一方的に伝えることなく、相手を尊重し他人に自分の意見を気持ちよく伝えられるよう他者とのコミュニケーションのあり方を実践的に理解するとともに、自分の住むまちで活動する人やお店に関心をもつことで郷土愛を育むことを目的に実施	ハイキングや登山経験の少ない小学生に対し、自然散策を中心としたハイキングを行うことで頂上へ登りきって得られる「達成感」を実感してもらうとともに、子どもたちに動植物をはじめとした自然に関する興味やアウトドア活動への関心を促すことを目的に実施。	小学生およびその保護者に対し、親子でのペットボトルロケット工作を通して、親子のコミュニケーション量を増やすとともに、どのように工夫したらうまく飛ぶのかを一緒に考えることで、子どもの科学的思考力を体得することを目的に実施。
実施内容	ペットボトルを使った工作(水鉄砲)と遊び	記事の書き方レクチャー、商店街4店舗へのインタビュー、壁新聞作成	六甲山ハイキング	親子ペットボトルロケット工作と飛距離コンテスト
実施日	2015年8月24日(月)9:30-12:00	2015年10月3日(土)10:00-17:00	2015年11月3日(火)9:00-15:40	2015年11月29日(日)13:00-16:30
実施場所	兵庫県立有馬富士公園	三田ほんまちプチホール	六甲山	有馬富士共生センターおよび広場
参加費	500円	2,000円	500円	1000円
参加者数	11人	2人	22人	19人
当日の様子	<p>制作過程の様子</p>  <p>作ったペットボトル水鉄砲で遊ぼう!</p> 	<p>オクショウ(ブックカフェ)でインタビュー</p>  <p>インタビューを記事にまとめています</p> 	<p>途中で草花の話聞きながら登ります</p>  <p>全員無事に登頂できました</p> 	<p>親子でペットボトルロケットを作ります</p>  <p>作ったロケットを打ち上げてみよう</p> 
企画担当者	酒匂大輝(関西学院大学3年生) 高橋志門(関西学院大学3年生) 山本梨香(子育て支援グループキララ)	高橋志門(関西学院大学3年生) 山本了子(園田女子大学2年生) ゲスト: 神谷千晶氏(神戸新聞記者)	井領太良(関西学院大学1年生) 廖 思超(関西学院大学1年生) 金井鐘一(ボランティア・法人理事)	浅井悠介(関西学院大学2年生) 寺川 諒(関西学院大学2年生)

企画名	○で伝える!! 凸凹絵本作り	パンで作ろう! ぼくらの「いっしょ」 ～いっしょから広がる、ともだちの輪～	1 up 工房 ～オリジナルネームプレート作り～	ようこそ、カラフルキッチンへ ～みんなで協力! お弁当作り!～
目的	点字を活用した絵本の制作を行うことで、さわることで得られる感覚を再認識し、身近な生活に溶けこむ点字への興味・関心を高めるとともに、点字の社会での役割を学び点字を必要とする人への気遣いが想像できる豊かな心の育成を目的として実施。	学校を超えたつながりづくりを促進する仲間づくりワークショップおよびパンづくりを行うことで、誰もが何らかの「共通点」および「相違点」を持っていることを理解し、認識のズレをどう埋めるかについてスタッフと一緒に考えることを通して、初めて会う人に対しても気持ちよく声かけてコミュニケーションの輪を広げることの楽しさを理解してもらうために実施	自分の名前を綺麗に書くだけでなく自由を楽しんで書くなど、「文字で遊ぶ」体験を通して子どもの発想力を育むとともに、自分の名前に対する意味や由来からイメージや物語感を膨らませることで、自分の名前に対する肯定感を高め、誇りを持てるように支援することを目的に実施。	食に関する知識の提供とそれに基づくグループでの調理実習を行うことで、友達といっしょに協力することや学ぶことの楽しさを感じ自分自身の自己肯定感を高めることで、子ども自身が新しい学年を意欲的に送るきっかけを作ることを目的に実施。
実施内容	さわる感覚に焦点を当てたワークショップ 点字学習、点字絵本作成	共通点探しゲーム、パンづくり	習字・絵の具を使った オリジナルネームプレート作り	学習(食の3大栄養素など)と調理実習
実施日	2016年1月31日(日)13:30-16:30	2016年2月21日(日)13:00-16:30	2016年3月30日(水)10:30-13:00	2016年5月22日(日)10:30-14:00
実施場所	まちづくり協働センター 創作室	まちづくり協働センター 調理実習室	まちづくり協働センター 創作室	まちづくり協働センター 調理実習室
参加費	500円	1,000円	500円	1000円
参加者数	4人	19人	4人	10人
当日の様子	「さわる」を実感するゲーム  点字の仕組みを学んで実際に打ってみよう 	いろんな共通点を探そう  パンでグループの「いっしょ」を表現しよう 	「自分」を知るためにマインドマップを作ろう  習字や紙を使って自分の名前を表現しよう 	栄養素チームに分かれて調理開始!  学んだこと、うまくいかなかったことの振り返り 
企画担当者	合月七海(関西学院大学2回生) 岩佐優奈(関西学院大学1回生)	浅井悠介(関西学院大学2回生) 澤岡峻矢(関西学院大学2回生)	和田楓子(関西学院大学2回生) 大田彩夏(関西学院大学1回生)	湯浅麻衣子(関西学院大学2回生) 加藤優可子(関西学院大学2回生) 寺川 諒(関西学院大学3回生)

人材育成 (2) 子どもの学習支援に関心をもつ人のための研修事業

「子どもの貧困」や子どもや家庭の地域での孤立などの地域課題に関心ある住民に対し、地域で地域の子どものを支える先進的な取り組みを行っているゲストをお招きした講演会および参加者同士でディスカッションを行うことで、三田での子どもを取り巻く状況を見つめなおし、三田でもできる身の丈にあった取り組みを考え、具体的な行動へのはじめの一歩の動機を促進することを目的に開催

① 私たちもできる!! 子どもを地域の真ん中に据えた「すごい取り組み」

テーマ	ひとりぼっちな子をなくそう！ ～子どもの「生活視点」で切れ目ない支援を目指して～地域に根ざした30年とこれから	子どもが地域で輝くしかけ ～誰かのために自分の未来のために～自分の力で稼ぎ、まちと出会える地域通貨「まーぶ」の取り組み	巻き込み、地域力！ ～子どもが自分の力で成長できるように～地域“総がかり”で取り組む、場づくりの10年とこれから
実施日	2016年2月28日(日)	2016年3月6日(日)	2016年3月13日(日)
ゲスト	村井琢哉氏 NPO 法人山科醍醐こどものひろば 理事長	松村幸裕子氏 NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝 理事	徳谷章子氏 NPO 法人ハートフレンド 代表理事
参加人数	18人	10人	14人
会場の様子			
			

※会場は三田市立総合福祉保健センター 講座室 (13:30-16:30)

第2回のみ、三田ほんまち交流館「縁」

②みんなで語ろう！考えよう!! 子どもが「いきいき育つ」ために、わたしたちの地域ができることを考えよう

日時： 2016年3月27日（日）13:30-16:30 （参加者12人）

場所： 三田市立総合福祉保健センター 講座室

進行： 大島 一晃（NPO法人場とつながりの研究センター 事務局長）

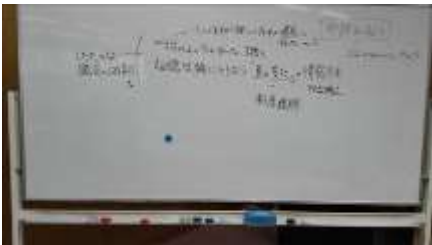
流れ： ①自己紹介ゲーム

②子どもの貧困に関する現状認識の共有（進行からの説明）

③子どもが「いきいき育つ」ために必要なアイデア出し（蜂の巣シートを用いて）

④グループでアイデアを深めるダイアログ、実現可能な企画立案

⑤共有



(2) 中堅スタッフ研修「目指せ！ 振り返りマスター」開催

【ひょうごボランティア基金 中間支援事業助成】

主に対人支援の現場で活動する NPO の中堅スタッフに対し、「振り返り」のスキルを身につけ自身の立ち位置を整理することで、中堅スタッフのバーンアウトを未然に防止するとともに、指導型リーダーではなく「支援型リーダー」を育成することを目的に実施。「気づきの事例検討会」について講義・実践を行った（神戸市内）

実施日	テーマ	ゲスト	参加人数
2016年1月23日	【講義】「振り返り」をする、とはどういうことか？	稲松真人氏	10人
2016年2月6日	実践! 効果的な「振り返り」をやろう (その1)	稲松真人氏	8人
2016年2月27日	実践! 効果的な「振り返り」をやろう (その2)	前川嘉彦氏	7人

講師 稲松真人氏（フリーランス）



講師 前川嘉彦氏（さんすい園）



3.2. 委託セミナー開催

今年度は実施なし

3.3. 講師派遣

依頼を受けて下記の講座に講師を派遣した。

実施日	内容	主催者	場所
2015年9月4日	「子どもの貧困」に向きあう地域をつくるには？ ～子どもの居場所づくりと学習支援のこれから～	三田市同和対策推進協議会松が丘小学校区地域部会	松が丘小学校
2015年11月8日	阪神北オータムフェスタ パネルディスカッション「文化を活かしたまちづくり」(パネリスト)	兵庫県阪神北県民局	総合福祉保健センター
2015年12月22日	「子どもの貧困」に向きあう地域をつくるには？ ～子どもの居場所づくりと学習支援のこれから～	ウッディ・カルチャー地区民生委員研修	ウッディ市民センター
2016年2月7日	オトコだけで語ろう！ ～地域で生きる、自分を現在からプロデュース (ファシリテーター)	三田市人権・男女共同参画プラザ	まちづくり協働センター

2016年3月16日	「子どもの貧困」ってなに？～ひとりぼっちのないまちを目指して～	三田市人権・男女共同参画プラザ	まちづくり協働センター
2016年5月27日	まちづくりを担う人、支える人、つなぐ人～NPOの多様な広がり「つながり」がもたらす可能性	甲南大学文学部「NPO論」（帯谷）	甲南大学
2016年6月4日	市民参加ってなに？	関西学院大学総合政策学部「財政学」（湯之上）	関西学院大学
2016年6月12日	共感を呼ぶ！プレゼンテーションセミナー	NPO法人阪神・智頭NPOセンター	伊丹市立まちづくりプラザ
2016年7月28日	「子どもの貧困」にどう取り組む？”まなび“と”そだち“を支える地域連携のあり方	三田小学校教職員研修	三田小学校

4. 市民活動に関する情報発信事業（収益 H27：0千円、H26：0千円）

4.1. メールニュース発行

主に毎月1～2回メールニュースを配信。当会の主催事業の案内に加え、助成金情報、地域イベント情報を無料で掲載している。現在175人に直接送付（前期末比30人増）、同内容を当団体ウェブページや地域SNS「さんでい」、facebookサイトに掲載している。地域イベント情報は、当団体のボランティアである新納晃重氏が、毎回文字入力してくださっている。

5. まちづくりに資する地域情報化事業（収益 H26：0千円 H25：0千円）

今期は実施なし

6. まちづくりに資するコーディネーション事業（収益 H27:10千円、H26：516千円）

6.1. まちづくりフィールドワークのコーディネーション

甲南大学文学部・帯谷博明ゼミの依頼を受け、まちづくりフィールドワークを実施。まち歩きガイドを小野正彦氏（三田観光ガイドボランティア）にお願いし、三田駅～三田本町近隣のまちの歴史を学び、ディスカッションを行った。また、関西学院大学の学生も参加し、合同ゼミおよび懇親会を開催した。（2015年12月5日）

6.2. 地域の未来を対話する場「フューチャーセッション」促進事業

【ひょうごボランティア基金 中間支援事業助成】

2016年～17年度にかけての重点事業として実施。今期実施の「居場所研究会」および「みんなで語ろう！考えよう!! 子どもが「いきいき育つ」ために、わたしたちの地域ができることを考えよう」にて試行的に実施。また、男性介護者の会「ぼちぼち野郎」と協力し、「認知症とともに生きるということ」を2016年7月23日に実施。14人の参加者とともに、認知症をテーマに語り合った。



なお、これまで当団体が推進してきた「寄付付き商品プロジェクト『ハピートライアングルプロジェクト』は、協力店舗の店主が中心となって実行委員会をつくり、「カンパリダービー」として継続的に実施されている。(9月末～10月初旬に実施)

7. 市民活動及びまちづくりに関する調査研究事業 (収益 H27: 15千円、H26: 127千円)

7.1. 研究受託

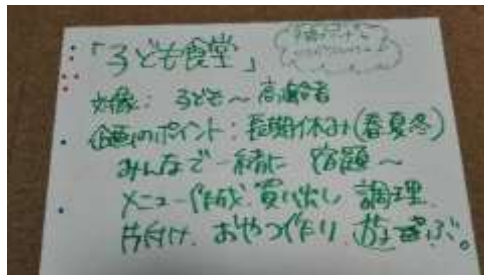
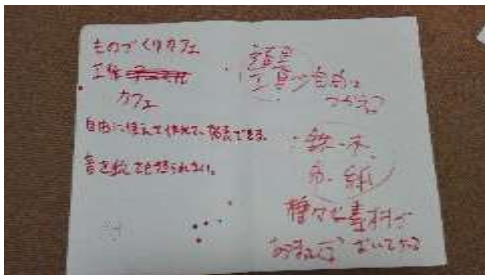
(1) 居場所研究会【ひょうごボランティア基金 中間支援事業助成】

地域の高齢者や子ども、障害をもつ人、ひきこもりなどのさまざまなテーマで人が気軽に集える「居場所」を作る活動や支援している人を対象に、現場での思いや工夫、苦労や課題、そして未来を参加者同士で議論することを通して、参加者同士の「経験」や「知識」、「知恵」をかけあわせて解決のヒントやアイデアを探し、よりよい「居場所」運営のためのコツとモチベーションと仲間を作ることを目的に実施した。

今回は、「居場所のこれから」と第し、フューチャーセッション形式にて実施。「これからの居場所」に求められる機能や要素について、ワークシートを用いて各自がアイデアを整理。ワークシートのアイデアをグループで持ち寄りながら、「これからの居場所」企画のアイデアを作成。最後に、グループごとで発表を行った。

実施日： 平成28年2月18日(木)・3月3日(木) 13:30-15:30

参加者数： 第1回15名、第2回14名(別紙参照)。



7.2. 市民調査支援

今期は実施なし

■ 管理および法人運営部門

1. 会員の状況 (収益 H27 : 75 千円、H26 : 81 千円)

正会員は、期初時点で 24 名であったが今期で 2 名の退会・1 名の入会があり、現在の正会員数は 23 名である。会員の多くはこれまでの当会のスタッフに加え、地域のつながりづくりに関心あるメンバーの参加が増えつつある。賛助会員は、2 名・団体であった。賛助会員の拡大を今期の重点課題として取り組みたい。

2. 寄附の状況 (収益 H27 : 782 千円、H26 : 338 千円)

今期も収益の約 15%を占めるなど法人運営の土台となりつつある。今後の活動に充ててほしいと活動謝金をそのまま寄付して下さった方も多くいらっしゃった。支援の広がりをもっと求めていきたい。

3. 会議に関する事項

総会および理事会を下記の通り実施。理事会ではメーリングリストで情報共有・意見交換を適宜行っている。

	日 時	会 場	備 考
総 会	2015 年 9 月 27 日	三田ほんまち交流館「縁」	通常総会
理 事 会	2015 年 9 月 16 日	ほんまち事務所	
	2015 年 11 月 14 日		
	2016 年 2 月 8 日	〃	
	2016 年 4 月 15 日	〃	

4. 他団体との連携・協力

以下の組織・ネットワークに所属し、適宜情報交換や事業連携を行っている。

- 車瀬橋商店街
- 三田市商工会
- ひょうご市民活動協議会 (HYOGON)
- ひょうご子育てコミュニティ
- 阪神北中間支援ネットワーク
- 三田小学校コミュニティスクール運営協議会
- 三田市社会福祉協議会 評議委員

■ これまでの業績推移

	収益	経常収支差額	主な事業等
平成 18 年度	6,192,761	△960,814	市民活動推進プラザ運営
平成 19 年度	9,339,984	137,083	地域 SNS「さんでい」立ち上げ
平成 20 年度	17,329,561	△347,523	総務省「地方の元気再生事業」
平成 21 年度	17,053,023	66,850	
平成 22 年度	49,197,634	△2,257,061	総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」。他、3 つの緊急雇用事業
平成 23 年度	20,208,730	△961,253	市民活動推進プラザ、受託終了。ほんまち移転
平成 24 年度	5,412,920	△1,222,338	ひょうごコミュニティ財団設立支援
平成 25 年度	4,823,671	407,254	居場所研究会、まなびあ設立
平成 26 年度	3,470,315	630,174	中堅スタッフ育成、ベネッセ助成金、まなびサタデースクール
平成 27 年度	4,228,054	717,566	気づきの事例検討会、フューチャーセッション

以上